



## 私の趣味と 私の仕事

### 日食顛末記

(株)青島設計  
設計室 主幹  
鵜飼 洋行



皆既日食をこの眼でみたい!

天文ファンとして以前から抱いていた夢を、昨年の8月21日、アメリカの地で実現させることができました。

「皆既日食」とはどのような現象なのでしょう?

太陽の周りを回る地球と、地球の周りを回る月が、太陽-月-地球の順にきれいに一列に並べば、月の影が地球に落ちて「日食」が起きます。

しかし月の軌道は5度程傾いている上、その直径の100倍を超える位置にあるため、地上に影を落とす事は非常に稀な現象なのです。見られる場所も限られていて、本影と呼ばれる完全に太陽を隠す姿が見られるエリアは直径100kmほどしかありません。自らその場所に出向かない限り、一生に一度あるかないかの体験なのです。

皆既日食が見られる時間はたった2分間余り。自分の眼でしっかりと見て、さらに証として写真を撮ること。この2つを同時に完璧に達成するために旅行前の3ヶ月間、昼夜腐心する毎日を送りました。その一部を紹介させていただきます。

会社の方々や家族からは、有難いことに、なんとか了解を得ることができました。当日の天気や、ミサイルで挑発する北朝鮮に対しアメリカが戦争を始めないか?などの心配はありましたが、これは天の恵みと無事を祈るしかありません。

一方、ネット等で日食の体験談を調べていて、日食本番の最悪のタイミングに信じられないハプニングが多いことを知りました。

本番直前の機材のバッテリー切れ、メモリー切れ。そして何故か多い本番中の身の回り品のトラブル。友人から日食直前にいきなりカメラが脱落しか

け、さらに履いていた靴の底が抜けるなど「悪魔のイタズラ」としか思えないアクシデントの連続で危ういところだったとの話を聞き、夢にうなされる程恐ろしくなりました。

一念発起の旅を後悔で終わらせたくありません。まずは対策として、全ての手順を整理するために一冊のノートを用意しました。そして機材の点検、所持品のチェックリストを作成。

渡米前の休日には、本番さながらの機材をセットして予行演習を行い、機材の癖などもチェック。問題点があれば改善方法や次善策を練ってノートに記録しました。例えば、皆既中は観望に専念するため、タブレットPCにカメラを接続して自動制御で撮影することにしていたのですが、晴天の屋外ではタブレットの液晶画面が暗く、非常に見づらいことに予行演習で気付きました。そこで本番では、普段は天空が開けた場所を選ぶところを、敢て日影の近くにセットしたのです。これは、ちょっとしたことで結果に大きく影響しました。

こうして、私は日食当日を迎えました。

場所はワイオミング州ボイセン。天気は快晴。

9時半頃。太陽が欠け始め、みるみるうちに月の影が太陽を侵食していきます。細い弓形になり、完全に太陽本体の光が消えるタイミングを計って、カメラや双眼鏡から減光フィルタを外した瞬間……歓声が上がりました。

双眼鏡で見たコロナは、まるで髪の様になっすぐに伸び、複雑に絡み合い、大きく波打って太陽の周りに広がっていました。プロミネンスが炎のように真っ赤に光っている姿ははっきり見えます。

写真は、その時撮影したものです。

一瞬の自然の神秘に触れることができ、満足のいく結果を得られました。

夢を実現するまで不安と心配で一杯でしたが、それも楽しい思い出です。そして少しか仕事や日常の中での自信に繋がる体験となりました。